

日本鐵鋼協會記事

◎賀表及賀箋捧呈

攝政宮殿下御成婚の盛儀御舉行に付本會に於ては各學會と諒解を求めたる上工學會各會を代表して賀表及賀箋を捧呈することとし、東京帝國大學史料編纂掛文學士鷺尾順敬氏に囑して案文(別記の通り)を作成し、書家綠川幸則氏に揮毫を請ひ成規の形式を具して本年一月二十五日工學會理事會根氏之を捧持して賀表は之を宮内大臣官房に、賀箋は赤坂離宮内東宮職に孰れも捧呈を了したり。

(賀表)

工學會理事長男爵 臣古市公威誠恐誠惶謹ミテ
 叡聖文武天皇陛下ニ奏ス伏シテ惟ミルニ
 陛下宸極ニ御シ給ヒシヨリ爰ニ十有餘載皇化日ニ躋リ國運
 月ニ興ル今茲吉辰ヲ擇ヒ皇太子殿下結婚ノ大禮ヲ舉ク給フ
 恭シク惟ミルニ
 皇太子殿下英明ノ天資ヲ以テ大政ヲ攝行シ聖謨ヲ恢張シ給
 ヒ隆隆タル威徳天下ヲ覆フ
 皇太子妃殿下竹園ノ貴胤ヲ以テ令聞淑徳一世ニ高シ今儲宮
 ニ入り給ヒ鳳鸞長ヘニ偕和シ鍾鼓嚴カニ節奏ス帝國全土ノ
 臣民齊シク皇室ノ繁榮ヲ仰キ國運ノ隆昌ヲ想ヒ歡抃措ク所
 ヲ知ラス工學會ハ日本鐵鋼協會日本鑛業會土木學會火兵學
 會煖房冷藏協會造船協會建築學會工業化學會電氣學會電信
 電話學會機械學會照明學會等十二ノ學會及ヒ協會ヲ以テ成

立シ夙ニ恩眷ヲ忝ウシ各其分ニ依リ帝國ノ文化ニ資シ聖恩
 ノ萬一ニ報答セシコトヲ期セリ今ヤ聖世ニ遭遇シ斯ノ盛事
 ヲ瞻仰ス何ノ慶幸カ之ニ若カン爰ニ恭シク賀表ヲ捧ク肅ミ
 テ鄙衷ヲ聞ス 臣古市公威誠恐誠惶頓首頓首
 大正十三年一月二十六日

工學會理事長從三位勳一等男爵古市公威

(賀箋)

工學會理事長男爵 臣古市公威誠恐誠惶謹ミテ言ス伏シテ惟
 ミルニ
 皇太子殿下天縱聰明英達攝政ノ重寄ニマシマシテ聖猷ヲ恢
 弘シ給ヒ嚮ニ遠ク海ニ航シテ遐方ノ文物ヲ觀友邦ノ緝睦ヲ
 敦ウシ給ヒ郁郁タル令聞中外ニ敷ケリ今茲昌辰ヲトシ結婚
 ノ大禮ニ膺ラセ給フ

皇太子妃殿下貞淑端麗德音夙ニ高シ今儲宮ニ入り給ヒ鳳鸞
 長ヘニ偕和シ寔ニ彝倫ノ大本ヲ立テ給フ帝國全土ノ臣民斯
 ノ盛儀ヲ瞻仰シテ歡喜何ゾ極ラン工學會ハ日本鐵鋼協會日
 本鑛業會土木學會火兵學會煖房冷藏協會造船協會建築學會
 工業化學會電氣學會電信學會機械學會照明學會等十二
 ノ學會及ヒ協會ヲ以テ成立シ各其分ニ依リテ帝國ノ文化ニ
 資セシコトヲ努ム今斯ノ盛事ニ遭遇シテ喜躍抃舞ノ至リニ
 堪ヘス爰ニ恭シク賀箋ヲ捧ク肅ミテ微忱ヲ表ス 臣古市公威
 誠恐誠惶謹ミテ言ス

大正十三年一月二十六日

工學會理事長從三位勳一等男爵古市公威

◎理事會

大正十三年二月六日(水曜日)午後五時より本會事務室に於て理事會を開き左の事項に就きて協議せり。

一、入退會者の件 (承認)

一、第九回通常總會開催に關する件

一、理事及評議員改選に關する件

一、其他會務に關する件

當日出席者は、香村小録、今泉嘉一郎、鹽田泰介氏等なり。

◎編輯會

大正十三年二月六日午後五時より本會事務室に於て編輯會を開き會誌第十年第三號の原稿を選定せり。

經濟時報及商況欄設置の件

小島精一氏より經濟時報及商況欄設置に關し提議あり、役員會に於て之を承認し、本月號より實施することゝなれり。

當日出席者は、田中清治、川上義弘、鹽澤正一、三島徳七、行方畝三郎、杉村伊兵衛氏並に小島精一氏等なり。

◎評議員會

大正十三年二月二十日(水曜日)午後五時より本會事務室に於て評議員會を開き左の事項に就きて協議せり。

一、入會者の件(承認)

一、大正十二年度決算並に大正十三年度豫算に關する件
原案を修正の上可決せり。

一、第九回通常總會に關する件 (可決)

一、定款附則第四十四條を削除の件 (可決)

一、會長理事並に評議員半數改選の件 (可決)

一、工業品規格統一調査會照會の煉瓦規格案要綱の件
右は印刷に附して評議員に配布し意見を求むることゝせり。

一、其他會務に關する件

當日出席者は、香村小録、今泉嘉一郎、鹽田泰介、河村曉、野田鶴雄、種子田右八郎、吉川雄輔、原田鎮治、桂辨三、内田徳郎、島岡亮太郎、日向庄作、井上禧之助、渡邊三郎氏等なり。

◎入退會者

前記役員會に於て入退會を承認せられたる會員左の如し。

入會者 (住所及職業)

吳海軍工廠造船部 工學士	正員	榊方橋三郎	紹介者
芝區芝浦製作所	准員	千葉忠一郎	吉川晴十
吳海軍工廠造船部	同	小山田 廣	室井嘉治馬
准員田原友輔氏は正員に變更せられたり。			川上義弘
			吉川晴十

退會者 (住所及職業)

大阪府東成郡敷津村藤永田造船所	准員	池 添 馨
神戸市三菱造船所	同	竹内延次郎
早大理工學部冶金科學生	同	野々村和吉
大垣市揖斐川電氣會社技師	正員	山 縣 友 雄

◎圖書寄贈

大正十三年二月南滿洲鐵道會社地質調査所より左記圖書を寄贈せられたり。

一、大連圖幅地質説明書 二部

◎居所不明者

左記諸君は居所不明に付執務上不便不尠候間御存知の御方は乍御手数數御通知被成下度候

正會員

伊能 莊次郎	小川 眞次郎	渡邊 應秀
川原 有美	米島 左馬藏	直村 盛之助
松井 直政	安岡 眞一	菰田 成亮
佐野 時藏	平田 庫三	毛利 要次郎
鈴木 鐵熊	杉本 喜市	戸川 益男
三木 正夫	田崎 二三次	城谷 陸造
野村 松三		

准會員

今井 修	今宿 安治	岡本 武夫
若林 昌之	川島 規矩夫	田中 政六
高野 侍郎	竹内 元清	向山 幹夫
宇津 信義	上野 登	桑野 穆彦
山田 正榮	山田 實	藤田 忠一
古林 政一	遠藤 忠治	明松 松藏
北村 萬吉	三澤 幹愛	宮崎 義三
青山 重春	平野 二郎	栗原 惣七
西垣 健三		

●一月二十三日講演會狀況

去る一月二十三日午後六時より丸の内帝國鐵道協會樓上に於て講演會を開く來會者約二百名あり頗る盛會なりき。

會長倭國一君より今回獨逸工學博士ウキルエツク君急病に因り電報を以て缺席の旨通信ありたるに付工學士小林君之輔君態々名古屋より出張せられ代講せらるゝ旨照會せらる。

獨逸國に於ける電氣製鋼業に就て

ウキルチエツク君論文、原文獨逸語、小林君代講

獨逸に於ける電氣爐發達の歴史より説き起し、戰時中非常なる發達を遂げたること、それは畢竟特殊鋼需要の増加したる爲めなること、續て電氣製鋼法と坩堝鋼法との比較をなし次で誘導式電氣爐と電極式電氣爐との比較並に其操業法を説けり結論として獨逸と日本との電氣製鋼業の比較をなし日本も將來電氣製鋼業の發達を圖らざるべからざる事に論及せり此間多くの統計表、曲線圖並に寫真等を準備せられて詳細説明せられたれば非常に有益にして興味ある講演なりき、講演時間一時二十分、終て五代龍作君、河村曉君等より質問ありたるが此等の回答は同博士より會誌上にてなさるゝ筈なり。

金屬鎔射被覆(めたりこん)に就て

川上 義弘君

先づ本法の由來より説き起し次で其應用範圍、鎔射裝置及鎔射法に關し説明せられ尙ほ被覆の狀況に就き詳説し最後に本法の特徴を摘指し以て本法の真相に就き紹介せらる。

殊に多くの見本を準備せられ一々其用途を例示し且つ屢々寫真並に圖表等を参照して了解を容易ならしめし外メタリコン會社長江澤鎌二郎君を紹介せられ經濟的事項に就き直接同氏よりの説明を求めたるを以て學理と實際とを加味し非常に有益なる講演なりき。講演時間一時十分、講演終て有泉寛君、五代龍作君、鹽田泰介君、河村曉君其他十數氏より質問ありたり。

右終て會長倭國一君より右兩講演者に對して丁寧謝辭を述べられたり。散會せしは午後九時二十分なりき。